第33号
1995（平成7）年5月

くすり博物館だより

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY
内藤記念くすり博物館　開館時間 9：00～16：00　休館日 月曜・年末年始(12／28～1／8)

企画展

薬売りの引札

～江戸・明治・大正時代のくすり広告～

1995年5月2日～11月23日

現代の薬の広告といえば、まずテレビ・新聞・雑誌・ポスターによるものを思いうかべる方が多いでしょう。昔の薬も今日と同様に、商品や商店を消費者に知らせるために宣伝活動がおこなわれていました。

【日野屋惣助江戸出店之図】一風斎芳桐画／江戸／33.6×45.3
"金応丹""人参大乗円"などの本舗であった薬屋日野屋惣助の店の引札。店頭には見事な屋根看板やついたて看板が置かれている。

【信州東山堂江戸出店之図】
歌川貞房画／江戸／33.7×22.2
"せんきの妙薬"を扱う東山堂の江戸出店の引札。看板を中心に描かれている。左上の口上の中では屋根看板がたいそう立派だが柱がないのには何か訳がありそうだといっている。
（単位：cm）

もともとは看板、暖簾（のれん）、広告行灯（あんどん）など固定された広告だけでしたが、江戸中期頃から積極的に商品を披露するために配る広告（引札）、貼る広告（絵ビラ）が登場するようになりました。

江戸時代の引札は、多色刷りの浮世絵版画の技法で手間ひまかけて作られたものもありました。有名な浮世絵師による絵に、文人や戯作者（げさくしゃ）の口上が述べられているものもあります。

また明治時代になると、石版画による印刷が登場して枚数もたくさん刷られるようになりました。あらかじめ印刷された絵に、商品名や店名を後から刷り加える方法もとられるようになりました。

年末年始の顧客への挨拶まわりには、縁起のよい七福神が描かれた引札や暦をのせたものが用いられ、大変喜ばれました。

こうした引札の名残りは、今日でも多く見られます。引札は単なる商業広告ではなく、情報の少なかった当時の庶民にとっては生活の情報でもありましたし、また美しい錦絵はかたわらに置き、大切にながめたものだったことでしょう。

このたびの企画展では収蔵資料の中からこのような引札を中心に展示しています。

明治・大正の引札

文明開化の波とともに江戸時代とは異なった風合いの引札が登場しました。これらの引札には、売薬制度の施行にともなって「官許」と明記されるとともに、印刷技術の進歩が反映されてきました。

広告の絵柄に最もよく登場するのが七福神。なかでも恵比須（えびす）と大黒に人気がありました。また説話の一場面や歴史上の偉人、美人画、花鳥風月などのできあいの絵に店名を後から刷り加える方法によって単価も安く作ることが可能になりました。このような引札は顧客の確保に効果がありました。

▲【花と扇子　石鹸製造販売】
東京・由利商店／明治／32.8×49.6

▲【打ち出の小槌の中の福助　諸売薬商】
安井養寿堂／明治／25.7×37.3

▼【鯛を釣る恵比須と大黒
八幡五香湯ほか】
新潟・関川宗徳／
明治／37.4×25.6

▲【笛を吹く金太郎　サフリン他】
岡山・吉備売薬／明治／25.8×38.2

▲【浦島太郎と乙姫　売薬・薬種・絵具】
宮城・田子薬店／明治／27.2×37.6

引札暦

暦は生活の情報でもあるので、暦がのっている引札は特に喜ばれました。現在でも年の瀬になると得意先には社名や店名を入れた翌年のカレンダーを配りますが、その習慣はこの頃に始まっています。

▲【遠田富之助薬舗　大正３年】
山形・遠田富之助／37.2×26.2

▶【金のなる木　大正５年】
東京・山田安民薬房
／53.8×19.7

▶【中将姫　明治36年】
東京・津村順天堂
／26.3×38.2

＜金持ちになるには？＞

「金のなる木」には、金持ちになる条件として
次のような“き（木）”が書かれています。

《真ん中の枝》
よろづほどのよ木（万ほどの良き）
じひふか木（慈悲深き）
しやうぢ木（正直）

《左の枝》
かせ木（稼ぎ）
ついへのな木（費えの無き）
ようぜうよ木（養生良き）
かないむつまじ木（家内睦まじき）

《右の枝》
あさお木（朝起き）
いさぎよ木（潔き）
しんぼうよ木（辛抱良き）
ゆだんのな木（油断の無き）

団扇絵（うちわ）

年の暮れに翌年の暦を配ったのに対して、得意客への夏の挨拶には広告入りのうちわを配りました。冷房のなかった時代にこうした心づかいはうれしかったことでしょう。

▲【健胃肥肉丸・玉兎丸】
大阪・高橋盛大堂／22.0×23.3

◀【仁丹】
岐阜・仁丹販売店三輪捨作
／35.7×19.5

▲【安全猫イラズ】
滋賀・海野薬局玉姫堂
／35.0×24.4

お知らせ

このたびの企画展にちなみ、『くすり博物館収蔵資料集②くすり広告』を出版いたしました。

くすりの錦絵広告やちらしなど、121点の図版を収録しています。『くすり看板』に続いて、くすり博物館が収蔵する貴重な資料をテーマ毎にまとめたシリーズの２冊目です。

定価2,000円

（郵送の場合、送料は申込者ご負担になります。ハガキでお申し込みください。）

薬草園から

アレキサンドリアセンナの開花

『日本薬局方』で定められているセンナはチンネベリーセンナとアレキサンドリアセンナの２種である。前者にはインド南部の生産地名が、後者にはエジプトの輸出港名が付けられている。ともに草丈は70～80㎝で夏に黄色の小花が咲くマメ科植物である。

この葉を下剤として用いたのは11世紀頃のアラビア人医師で、アロエに代わる下剤として広くヨーロッパへ紹介された。その後、欧米諸国で繁用される一般的な緩下薬となった。

ときどきしぶり腹注を起こすことはあるが、他の下剤よりも作用が穏やかなため、便秘症に応用されている。日本では、『日本薬局方』の初版から現在までずっと収載されてきたが、あまり使用されてこなかった。

最近のセンナの日本への年間輸入量は500トン前後で、そのほとんどがインドから輸入されるチンネベリーセンナである。前述のしぶり腹を起こすことの少ないセンナの莢（さや）（センナ実）も年間10トン程度、インド・エジプトから輸入されているようである。

上記の生産地からも容易に推察できるように、センナは高温乾燥を好む植物である。当園では、20年程前からチンネベリーセンナを栽培しており、高温乾燥の夏にはたくさん花が咲き種子もよく採れるが、冷夏の年はほとんど種子も採れないといった調子である。

１昨年末、アレキサンドリア種の種子を手に入れることができたので、温室で種子を播き、苗を育て、５月に植え付けたところ、良く成育し、２種とも開花結実した。昨年は記録的に暑くて雨の少ない夏であったことが幸いした。また、アレキサンドリアセンナが本邦で開花結実したのは初めてのことのようである。

注）下痢の１種。便意を激しく催すが、よく通じない状態。

薬用植物園　白井英夫

▲アレキサンドリアセンナの花。
▶右奥が、チンネベリーセンナ、手前がアレキサンドリアセンナ

1994年度の企画展　終了

『病と祈りの歳時記－さまざまな健康への願い－』は11月27日をもって盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。この企画展で展示されたような、くらしの中で生まれ、伝えられてきたものから、人々の健康や病気への思いを感じとっていただけていたら、うれしく思います。

植物画講座作品展　開催

2月1日より3月25日まで植物画講座の受講生の皆様のうち、24名の方の作品の展示を行いました。1人で2点描かれた方も多く、力作ぞろいでした。その他、植物画を描く際のこつを、講師・逸見の作品を用いて紹介しました。

資料の貸し出しがありました

1／22～3／20　　土浦市立博物館
『土浦衛生展覧会
－病と健康の博物誌－』

近代までの病気や衛生に関する特別展で、くすり博物館からははしか絵や「通俗衛生図解」「コレラ予防日用食物心得」などが貸し出されました。

取材がありました

昨年度は2月までで、博物館や企画展の紹介は35件、資料などの撮影や取材は20件ありました。

朝日新聞より出版された『歴史を読みなおす』シリーズの「健康観から見る近代」には、「衛生寿互録」など8点の写真が掲載されるなど、くすり博物館の貴重な資料が数多く紹介されました。

また読売新聞では「戦後50年にっぽんの軌跡」として、くすり博物館の展示資料である碧素（へきそ；ペニシリン）の写真を掲載、ペニシリン開発の歴史を紹介しています。

パンフレットが新しくなりました

昨年度、常設展示の一部を展示替えいたしましたので、それにともなってパンフレットの写真も差し替えました。新しいパンフレットをご希望の方はお申し出ください。

とぴっくす

94年度博物館五大ニュース

①日本薬学会薬史部会で館長の岩井が薬剤師免状第壱号について発表。
②マルチメディアを使ったカロリー計算コーナーを導入。
③11月の月間来館者数が6,500人となり、過去最高。
④『碧素・日本ペニシリン物語』復刻版を発売。
⑤薬用植物友の会の開始。今月の薬草説明会もご好評に応え継続中。

薬草友の会が2年目を迎えました

4月から薬草の栽培の実地作業に取り組んだ薬草友の会も、12月で終了。いろいろ試行錯誤がありましたが、充実した体験の1年となったとの声をいただき、大変嬉しく存じています。

また、今年度は新たに募集を行い、4～12月の第1土曜にカミツレ・エビスグサ・ウコンの栽培を行います。

あなたはもうカロリー計算を体験しましたか？

タッチパネル式のパソコンでのカロリー計算が来館者に好評です。使い方は、まず画面の指示にしたがって性別・年齢・身長・体重・生活強度（女性はこのほか妊娠の有無も）を入力します。次に朝・昼・夕食と間食に食べたものを100種類のメニューから選んで、その分量とともに入力します。すると栄養の摂取量が計算され、データ表が打ち出されます。このデータ表には「ふとりすぎ」などの肥満度も表示されます。

本格的なカロリー計算は手間ひまかかるものですが、このカロリー計算はあらかじめメニューを限定していますので短い時間で、自分の栄養摂取量が大体わかるようになっています。なお、このソフトはくすり博物館のオリジナルです。

新収蔵資料

～定斎（じょさい）の行商薬箱～

このたび東京都の小野里輝夫様より、定斎（じょさい）の行商薬箱をご寄贈いただきましたのでご紹介いたします。

定斎は、夏の暑気あたりに効くとされた薬です。この薬の行商人は薬の効き目を人々に示すため、夏の炎天下、笠もかぶらず、江戸の街中を売り歩きました。つまり、“自分は定斎をのんでいるから、こんな炎天下でも平気ですよ”という訳です。また、天秤棒でこの薬箱を担いで腰で調子をとって歩くと、薬箱の引き出しの取っ手がかたかたと鳴り、江戸の夏の風物詩とされました。

資料・図書のご寄託・ご寄贈者
ご芳名

会津泰三　青山　泰　伊藤義民
小川繁徳　奥田　潤　小野里輝夫
片岡正明　片桐一男
神奈川県視覚障害援助赤十字奉仕団
新藤恵久　高橋　通　高橋　文
滝塚きん子　竹内孝一　田崎哲郎
丹下博文　筒井栄吉　虎谷豊二
中西淳朗　中村陽一　故・新見廣和
日本生命財団　不破百合
松下美千代　故・湯浅四郎
横田　穣　吉井千代田　渡辺　昇
（敬称略）

ありがとうございました

～お詫び～

『くすり博物館だより』32号「資料・図書のご寄託・ご寄贈」の欄にて間違いがございましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のように訂正させていただきます。

（誤）松本明知→（正）松木明知

館長　岩井鑛治郎　　学芸員　稲垣裕美（編集担当）、朝倉加代　　学芸員・司書　野尻佳与子、伊藤恭子　　庶務　森田麻起子
説明員　小島敦子　　薬用植物園　白井英夫、栗本省三、松尾三雄　　顧問　青木允夫　　アドバイザー　逸見誠三郎
内藤記念くすり博物館　〒501-61　岐阜県羽島郡川島町エーザイ㈱川島工園内　Phone：058689-2101　Fax：058689-2197